

## 賀川豊彦シンポジウム－新時代の〈友愛〉と公共的知識人

2009年5月17日

共同通信社ニュースセンター委員

国際平和協会会長・伴 武澄

今なぜ賀川なのか？ 資本主義暴走の時代に

1950年代 ヨーロッパの復興、アジア植民地の独立

1960年代 米ソによる宇宙・核開発競争時代

1970年代、米国経済の疲弊、OPECの胎動

1989年 ベルリンの壁崩壊とグローバルエコノミーの台頭、環境問題の浮上

1990年代、ITによる米国経済の復権、日本経済の退潮、

米国一極化進む、企業の合従連衡、独禁政策不在

2000年代、国際金融資本のバブル時代

### 1. 世界的金融危機と協同組合

第一次大戦後にドイツで社会民主主義、英国で労働党政権

ソ連と修正資本主義モデル

賀川の協同組合的企業経営、協同組合貿易、協同組合による世界国家を提唱

日本型官僚主導経済モデルとサッチャーリズム

ユヌス氏のソーシャルビジネスモデル

### 2. NPOとNGO

NGOは非政府組織、NPOは非営利組織。国境なき医師団など国境をこえる組織の活動が特徴。世界的に認知されたのは1992年のリオデジャネイロでの世界環境会議。

ヨーロッパ的には生協もまたNGOの一形態。

賀川は協同組合を経営する一方で協同組合による経済体制の構築を目指した。

### 3. EUと世界連邦

1950年、シューマン外相が提唱した石炭鉄鋼共同体（ECSG）。国境なきヨーロッパの礎となる。1978年、EC議長のコロンボ外相が訪日、賀川の『**Brotherhood Economics**』の思想がEC設立の理念に流れていると国会演説した。賀川は1936年、米国で出版した同書に世界連邦への道筋として協同組合に基づく「産業別」「地域別」の経済会議を提唱している。

### 4. 協同組合

今や空気のような存在だが、農協、生協、共済など人々の生活に浸透している。賀川が創設に関わったコープこうべは世界一の生協として140万の会員を抱える。神戸市の人口は153万人である。神戸市は神戸株式会社などと揶揄させてきたが、実の隠れた為政者は生活協同組合たるコープこうべかもしれないのである。

賀川の協同組合運動の中核に「労働者・農民の生活向上」「労働者の人格復権」という二つの願いが流れ、「相互扶助」の精神がみなぎっていた。そして、常に与えられる「自由」ではなく、働く者の「自治」を求めている。